

2024 年度認定審査サマリーレポート

JABEE の認定・審査は、正会員 56 専門学協会の協力を得て、認定分野ごとに置かれた 16 の分野別審査委員会および JABEE の認定・審査調整委員会による審議・調整に基づき実施されています。プログラム（本レポート本文末尾の注参照）の審査は、各分野別審査委員会から推薦され、認定・審査調整委員会が承認した審査チームによって行われます。その審査結果は、分野別審査委員会における分野としての審議・調整の後、認定・審査調整委員会において全体の審議・調整を行い、最終審査報告書としてまとめられます。最終審査報告書は認定会議で審議・決定した後、理事会の承認により確定し、申請プログラムに送付されます。

2020 年度より暫定的に適用してきた新型コロナウイルス感染症対応の審査スケジュールおよび審査手順は、2024 年度に申請された認定審査までで終了しました。2024 年度は、2023 年度申請プログラムのうちの認定継続審査、中間審査、並びに 2024 年度申請プログラムのうちの新規審査および下記 1.(2)項記載の特別措置に基づく一斉審査を合わせて約 60 件の審査を実施しました。

1. 2023 年度／2024 年度認定審査結果

(1) 審査方針および結果概要

2024 年度は 2023 年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症への対策として以下により審査を進めることとし、JABEE ウェブサイト

https://jabee.org/accreditation/basis/examination_doc
で公表しました。

① 暫定的な審査スケジュールの適用

「2024 年度申請プログラムの認定・審査スケジュールと審査方針について」

② 実地審査は原則として Web 審査により実施

「審査のガイドライン（新型コロナウイルス対策のための暫定的対応）第 4 版」

「建築分野に関する審査のガイドラインの補足」

この方針に基づいた審査の結果、2023 年度に申請のあった審査のうち認定継続審査および中間審査 47 件、2024 年度に申請のあった審査のうち新規審査 1 件、認定継続審査および中間審査 10 件のプログラムがそれぞれ認定されました。

また、上記のコロナ禍における暫定的な審査スケジュールを踏まえた一斉審査特別措置等により、コロナ禍前は 10%～20%台であった当該年度の全認定プログラム数(予備審査を除く)に占める一斉審査対象プログラム数の比率は、30%～50%台まで増加しました。

2024 年度に認定されたプログラムの審査は 144 名の審査員によって審査が行われました。また、23 名の審査員候補者が、審査研修員として審査に参加しました。審査員・審査研修員 167 名のうち産業界の経験者は 102 名（61%）でした。

2001 年度の認定事業開始から 2023 年度までの認定プログラムの累計は、海外のプログラムを除き 175 教育機関の 528 プログラムとなりました（図 1、表 1）。このうち 99（57%）の教育機関では複数のプログラムが認定されています。また、認定プログラムの修了生は累計で約 37 万人に達しています。

一方、認定継続の辞退による認定プログラムの減少は、2024 年度も同様に続いています（図 2、表 1、表 2）。今後も認定を継続していただくための対策を引き続き検討し、実施していきます。

なお、2025 年度以降の審査申請プログラムについては、申請された年度内に審査が完了する通常のスケジュールに戻り、コロナ禍で培った Web 会議を活かした遠隔調査と人数を絞った訪問調査を組合せたハイブリッド実地審査を行うとともに、それらに対応した審査手順により実施します。

（2）同一教育機関の複数プログラムに対する特別措置

2020 年度から 6 年間、同一教育機関の複数プログラムの審査が 2 年度連続する場合については、その対象となるプログラムの審査を他のプログラムとともに 2 年目の年度に一斉審査として行う特別措置を実施しています。この措置が適用されたプログラムは、2023 年度認定対象プログラムのうち 3 プログラム、2024 年度認定対象プログラムのうち 4 プログラムでした。

（3）審査員研修会

審査員研修会は集合形式の研修会をすべて中止し、オンラインでの研修としました。従来は毎年 7 月に実施していましたが、コロナ禍における審査スケジュールの変更により年に 2 回審査員を編成することに対応するため、2021 年度から 2 回のオンライン研修会を実施しており、2024 年度は 2024 年 8 月 27 日と 2025 年 3 月 24 日に実施しました。また、同時期に JABEE が契約している Web 講習サイトの「学び〜と」に審査員向けの教材を用意して受講していただきました。分野が主催する審査員候補者の導入研修会（審査講習会）は 2 回開催されました。

(4) 国立高等専門学校校の KIS 認証評価と JABEE 審査方式の見直し

国立高等専門学校機構（以下、高専機構と呼ぶ。）は、日本工学教育協会の協力を得て、2022 年度より高専本科の教育の質を評価して認定する仕組み（国立高専教育国際標準：略称 KIS）の運用を開始しました。JABEE では、開始当初よりこの仕組みに対し継続的に認証評価を行っています。2024 年度も認証評価の一環として行った継続モニタリングの結果、KIS 認定組織との意見交換、3 つの高専の KIS 評価や審議プロセスの視察を通して、KIS 認定の仕組みの改善が進んでいることを確認しました。継続モニタリングの結果については 2025 年 4 月の理事会で報告し、KIS 認定の母体である日本工学協会と高専機構に報告する予定です。一方、KIS 認定の評価結果を JABEE のプログラム審査に利用して受審プログラム／審査員双方の負荷を軽減させることについては、まだ KIS 認定評価の懸念事項を払拭することができず、成果を出すには至りませんでした。

2. 国際関係

(1) ワシントン協定継続加盟審査

JABEE が加盟しているエンジニアリング系学士課程認定の相互承認を行うワシントン協定の継続加盟審査が 2024 年に行われました。2017 年に続く 3 度目の審査となります。2024 年 9 月下旬に協定審査員 3 名（韓国、米国、中国）が来日し、会長、副会長、国際協定委員長、基準委員長、国際部顧問出席の上プリミーティングを行い、JABEE の組織概要、審査の手順と方法そして認定基準などについて説明を行いました。

3 大学 4 プログラムの実地審査を現地視察しました。2 月に行われた認定・審査調整委員会の調整審議についても、当該プログラムの審査結果報告の時間帯の映像を海外からライブ視聴しました。

ワシントン協定の継続加盟審査の結果は、6 月にメキシコで開催されるワシントン協定総会で報告、審議の上、投票されます。

(2) 国際協定の会議参加

国際エンジニアリング連合（IEA）総会、ワシントン協定総会、情報系のソウル協定中間会議は対面で、建築設計・計画系のキャンベラ協定中間会議はオンラインで開催されました。JABEE 国際協定・事業委員長、国際部や協定部会の主査、委員が出席しました。

(3) JABEE が実質的に同等であると認定した海外の教育機関の課程の修了者

2022 年度より「技術士等の資格に関する特例」としてワシントン協定に加盟する他国の団体が認定した課程の修了者に対し、技術士法第 31 条の 2 第 2 項に基づく技術士

等の資格に関する特例が適用される事となっています。この要件を満たす第一号の修了者からの申請がありました。JABEE 認定プログラム修了生と同等の技術士第一次試験免除措置が適用されることになります。

3. 広報活動

(1) JABEE25 周年記念行事

JABEE 創立 25 周年記念大会を 6 月 5 日に開催しました。本大会には、JABEE の活動を支援していただいている文部科学省、大学・高専、学会・協会、企業の方々にご参加いただきました。文部科学省および公益社団法人日本技術士会からの来賓挨拶に続いて、JABEE 認定 16 分野から「各分野での取り組みや課題」、「今後の対応」について発表がありました。その後、総合討論と会場およびオンライン参加者との意見交換を行い、16 分野の状況を共有できた貴重な機会となりました。

また、第 2 弾として、日本工学会と共催でフォーラムを 11 月 30 日に開催しました。メインテーマは「我が国の技術系人材の育成を考える」とし、参議院議員与党技術士議員連盟や文部科学省からの来賓挨拶に続き、第 1 部「エンジニアとして活躍するためには」、第 2 部「国際的な活動の重要性」の講演が行われ、引き続き総合討論を実施しました。本フォーラムでは、国際的に活躍するエンジニアの育成について議論を深める貴重な機会となりました。

(2) SNS による情報発信

JABEE の活動や関連情報を広く知っていただくため、X（旧 Twitter）を活用し、週 1～2 回の頻度で情報発信を継続しています。これにより投稿に対して数百名の方々に閲覧されるようになっていました。また、フォロワー数も当初目標の 100 名を超え、現在は 180 名となりました。今後もより多くの方に関心を持っていただけるよう、魅力的な投稿やコンテンツを発信していきます。

(3) JABEE パンフレットの更新

パンフレットの内容を見直し、より分かりやすく、より見やすい構成に改版しました。特に学生、認定プログラム修了生、大学教授、企業の方々の多方面からのインタビューを掲載し、さらに正会員・賛助会員の一覧や認定プログラムの一覧も追加しました。

(4) 学会、省庁、企業関係者等への広報活動

大学・高専などの高等教育機関や、JABEE の活動を支援してくださる正会員・賛助会員（学協会や企業）を訪問しました。JABEE の国内外の状況について説明を行うとともに、意見交換を実施しました。

(5) ワークショップ

公益社団法人日本工学教育協会との共催により、「国際的に通用する技術者教育ワークショップシリーズ」の第21回を3月29日に開催しました。前回に引き続き、“「サーキュラーエコノミー」を生き抜く技術者が身につけるべきこと”をテーマに、「ライフサイクル設計の全体像の解説とその教育プログラム」についての講義が行われました。

4. 認定プログラム修了者の技術士資格取得状況

JABEE認定プログラムの修了者（以下、修了者と呼ぶ）は修習技術者（技術士第一次試験合格と同等）となります。修了者の修習技術者が、2008年度に技術士第二次試験に初めて合格し、技術士の資格を取得しました。それ以降、修了者の合格者は順調に増加しています。また、初期は修了者が若年であったため低かった合格率も年々向上し、2024年度の第二次試験の結果では、修了者以外の受験者の合格率とほぼ同等となっています（図3）。

2024年度の修了者の合格者数は498名で2023年度より9%減少していますが、受験者全体の合格者数も昨年度の2,690名から2,395名とほぼ同じ9%減少していましたので、JABEE修了者特有のことではありませんでした。一方、全体の合格者に対する修了者の割合は20.8%となっており、昨年度の19.6%から増加しています。さらに年代別で見ると、20代の44%、30代の40%、40代の8%（40歳以上の修了者はまだ極めて少数のため、合格者はほとんどいません）が修了者となっています。合格者の平均年齢は全体で42.1歳であったのに対し、修了者は33.5歳でした。また、通常の大学卒業年齢で修習技術者となった後技術士第二次試験を受験できる最年少（26歳）の合格者は全体で40名ですが、そのうちの23名（58%）は修了者でした。

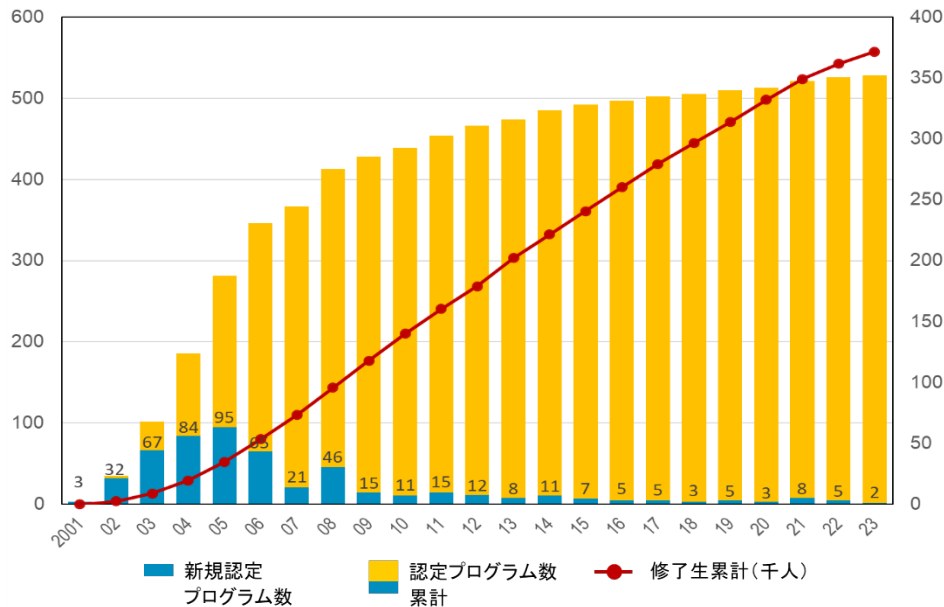
以上のように、JABEEの認定が若い技術士を生み出すための推進力の1つとなっていることが分かります。

注：「プログラム」とは、学科、コース、専修等のカリキュラムだけではなく、プログラムの修了資格の評価・判定を含めた入学から卒業までのすべての教育プロセスと教育環境を含むものであり、学科やコースなどの総称です。

図1 認定プログラム数と修了生数の累計(海外プログラム除く)

プログラム数累計

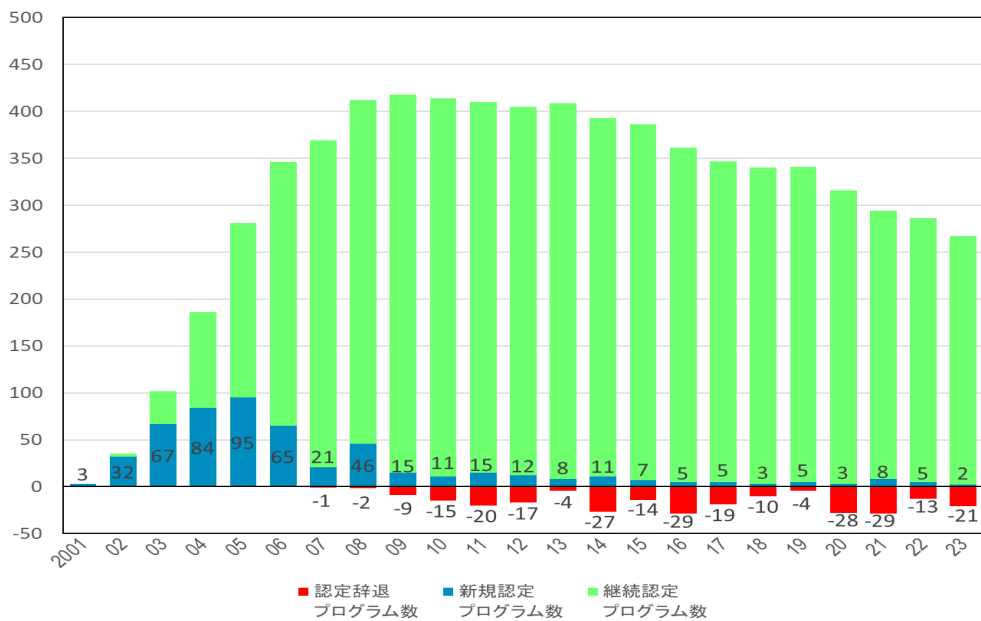
修了生数累計(千人)



注：2024年度はまだ審査が完了していないプログラムがありますので、結果は2025年度のサマリーレポートで報告いたします。

図2 認定中のプログラム数の推移(海外プログラム除く)

年度毎の認定プログラム数



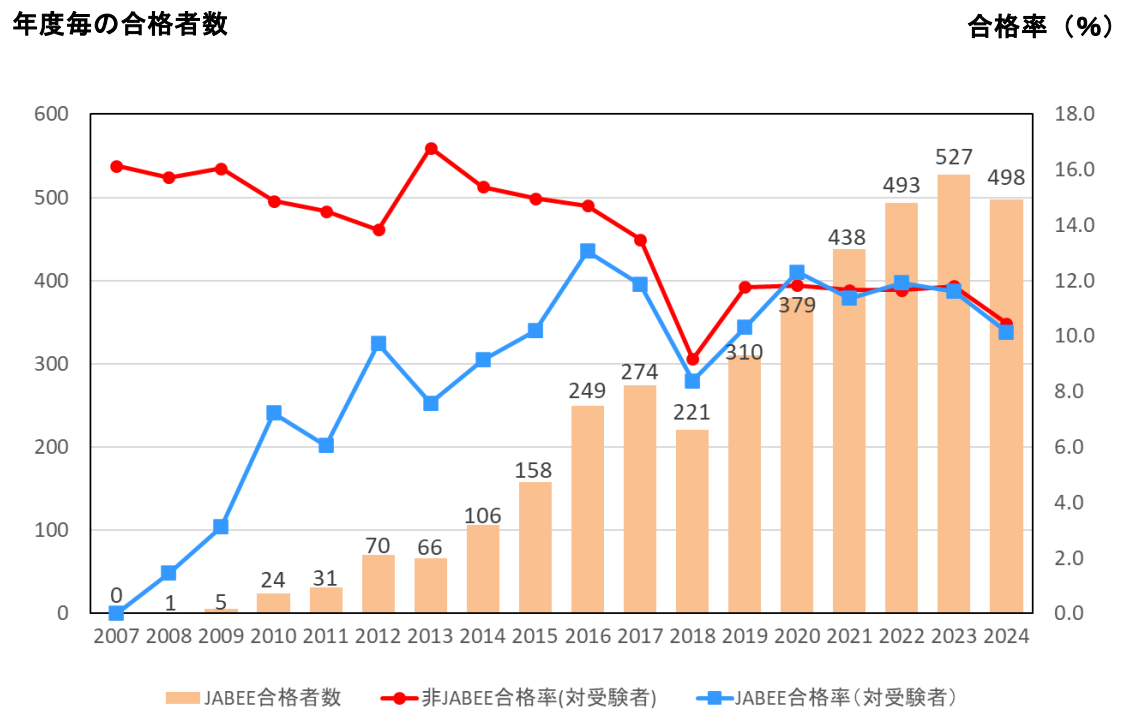
注：2024年度はまだ審査が完了していないプログラムがありますので、結果は2025年度のサマリーレポートで報告いたします。

表1 教育機関種別認定プログラム数 [学士、修士] 2001-2023 累計および 2023 年度時点(カッコ内) [海外のプログラムは除く]		
教育機関種類	教育機関数	プログラム数
国立大学	54 (46)	245 (118)
公立大学	11 (7)	25 (10)
私立大学	56 (42)	170 (101)
高等専門学校(専攻科)	53 (26)	87 (37)
大学校	1 (1)	1 (1)
< 合計 >	175 (122)	528 (267)

認定プログラム数累計、ただし () 内は 2023 年度時点の認定プログラム数

表2 分野別認定プログラム数 [学士、修士] 2001-2023 累計および 2023 年度時点(カッコ内) [海外のプログラムは除く]	
分野	2001-2023 累計(現在)
化学および化学関連分野／化学及び関連のエンジニアリング分野	55 (14)
機械および機械関連分野／機械及び関連の工学分野	87 (39)
材料および材料関連分野／材料及び関連の工学分野	15 (6)
地球・資源およびその関連分野／地球・資源及び関連の工学分野	12 (9)
情報および情報関連分野／情報専門系学士課程(CS、IS、IT・CSec、情報一般分野)	45 (17)
電気・電子・情報通信およびその関連分野／電子情報通信・コンピュータ及び関連の工学分野／電気・電子及び関連の工学分野	66 (29)
土木および土木関連分野／土木及び関連の工学分野	69 (56)
農業工学関連分野／農業工学及び関連のエンジニアリング分野	19 (13)
工学(融合複合・新領域)関連分野／工学(融合複合・新領域)及び関連のエンジニアリング分野	66 (27)
建築学および建築学関連分野／建築学・建築工学及び関連のエンジニアリング分野 建築学学士修士課程(建築設計・計画系分野)	46 (29)
物理・応用物理学関連分野／物理・応用物理学及び関連のエンジニアリング分野	6 (4)
経営工学関連分野／経営工学及び関連のエンジニアリング分野	6 (3)
農学一般関連分野／農学一般及び関連のエンジニアリング分野	13 (11)
森林および森林関連分野／森林及び関連のエンジニアリング分野	5 (3)
環境工学およびその関連分野／環境工学及び関連のエンジニアリング分野	8 (2)
生物工学および生物工学関連分野／生物工学及び関連のエンジニアリング分野	10 (5)
総計	528 (267)

図3 技術士第二次試験合格者数／合格率の推移



- 注1：「JABEE 合格者数」は、技術士第二次試験に合格した JABEE 認定プログラム修了者の数を表す。
- 注2：「JABEE 合格率」は JABEE 認定プログラム修了者の技術士第二次試験の合格率（受験者中の合格者の割合）を表す。
- 注3：「非 JABEE 合格率」は JABEE 認定プログラム修了者を除いた受験者の技術士第二次試験の合格率を表す。

以 上